

テーマ：式根島の観光のために私たちができること

式根島は、美しい自然、そこに触れられる場所が多い点が魅力である。式根島一周で約12kmなので、レンタサイクルでのんびりと巡ることができる。そんな式根島は、東京の島であるため、日々の忙しさから離れたい方にとっては、数時間で行ける絶好のスポットだ。今回、式根島を訪れてみて、東京とは思えない魅力を感じるとともに、島だからこそその課題が潜んでいることも感じた。

それは、宿泊施設や飲食店の数が限られているという問題だ。今回は比較的空いている秋だったが、夏の繁忙期には宿泊施設が足りず、すぐに埋まってしまう。式根島は人口が減少しているため、人手も足りていない。加えて、持続可能な観光の観点から、自然環境を守りながら観光業を発展させる方法を模索する必要もある。

この問題を解決し、式根島の観光をより活性化させるために、私たちができることは、大学生や高校生の学びと掛け算することではないかと考えた。

まず宿泊施設や飲食店の不足を補うために、大学生がサポートする仕組みを作ることが考えられる。例えば、地元の空き家を簡易宿泊所として提供すれば、宿泊可能な場所を増やせる。大学生がリノベーションや宿泊運営の実践に関わることで、地域の負担を軽減できるだろう。また、夏季の観光客増加に対応するために、期間限定のフードトラックや屋台を導入することで、食の選択肢を広げることも可能だ。さらに、ゴミ問題解決のためのワークショップも有効だ。観光客が増えることで環境負荷も高まるため、ゴミ拾いイベントやエコツーリズムを推進し、観光と環境保護を両立させることが重要である。大学生が環境学の知識を活かし、ゴミのデータ分析や清掃活動を行うことで、持続可能な観光の基盤を築くことができる。

確かに、人が増えることで、オーバーツーリズムなどの問題を引き起こしかねない。しかし、観光という観点では、観光客も必要である。学生が、式根島の人々と手を取り合うことで、解決できるのではないだろうか。

このような観点から、式根島の観光を活性化させるためには、観光客や外部の人々が協力し、持続可能な観光の形を模索することで、新しい視点やアイデアが加わり、より実現可能な解決策が生まれる可能性が高いと考える。学生にとっても、実際にフィールドでの実践の機会になると考え、持続可能な島になっていくのではないだろうか。